

よんまち かけ橋 新聞

#2



- 01.よんまちトピックス
- 02.よんまち百景
- 03~04.商店街の人に会いに行く
- 05~06.昭和9年の福山中心部古地図
- 07.よんまち新店
- 今月の表紙:パリー 理容院

2019年3月号
発行:福山駅東地区4商店街連携協議会(よんまち)
支援:福山商工会議所



とんど〜とんど〜とお、 吉津のと〜んど〜 ヨイヨイ!



昔のとんど(左義長)祭りは福山の祭りのシンボル。多くの市民や備後地方の皆さんが集合して楽しんでました。先日、南学区の老人会の皆さん三十人にビデオを見てもらったところ、全員大声でとんど音頭を唱和してくれ、懐かしい福山のシンボルであった祭り。是非4商店街と一緒に、よんまちとして



美声が響くとんど祭り。築城四百年にむけて「福山とんど」が話題になってきています。本年も正月七日に東や旭、深津の学区町内会の皆さんが中心となって福山とんど実行委員会を立ち上げ、よんまち他、中心部を五基の山車が子供たちを中心として練り歩きました。本通では、花をそえるべく、福山古典芸能保存会の皆さんが和服姿で三味線や太鼓を奏でて昔の風情を演出。保存会会長の星野さんが、衰えぬ美声で、これがとんどの本調子だとお披露目してください。



昨年の福山まるしえのマルシェの様子

いよいよ開催!

福山
まるしえの
マルシェ
2018.3.21 (水) 祝

3月21日に、福山駅東地区4商店街連携協議会、通称よんまちが連携して企画した「福山まるしえのマルシェ」が開催されます。昨秋、文化の日にはじめて開催されたこのイベント。天候にも恵まれ約2万人の人が商店街に足を運んでくれました。今回も多くの方に商店街に興味を持っていただきたければ、開催の仕方を考えています。この「福山まるしえのマルシェ」の始まりは、5年前、市民のアイデアにより本通で開催され、福山ブランドにも認定された「パンのマルシェ」。その後、新装された通りの明るい空間を生かしたとおり町ガーデンマルシェに発展しました。従来の「パンのマルシェ」に加え、本通笠岡町地区では自然な生活を提案する「ロハスなマルシェ」、そして、本通船町地区では植物をテーマとした「グリーンマルシェ」を開催しました。そして昨年の「福山まるしえのマルシェ」では、これにジョイぶなまちの昭和の風景を再現した「懐かしいマルシェ」、また、ま通りの青空将棋大会「文化のマルシェ」が加わり、四つの商店街のはじめての連携イベントとして道を開くことができました。

3月21日福山まるしえのマルシェの内容(詳細は折り込みチラシにて!)

- ◎本通、今町地区恒例「パンのマルシェ」
- ◎本通笠岡町地区は、「ロハスなマルシェ」物々交換市も開催。
- ◎本通船町地区では「グリーンマルシェ」緑に囲まれたくつろぎ空間
- ◎Joyぶなまちは「アンティークマルシェ」珍しい昭和のおもちゃが!
- ◎きたはま通りでは「きたはまマルシェ」花とワインと大道芸
- ◎とおり町交流館の辺りでは恒例「とおり町ライブ」

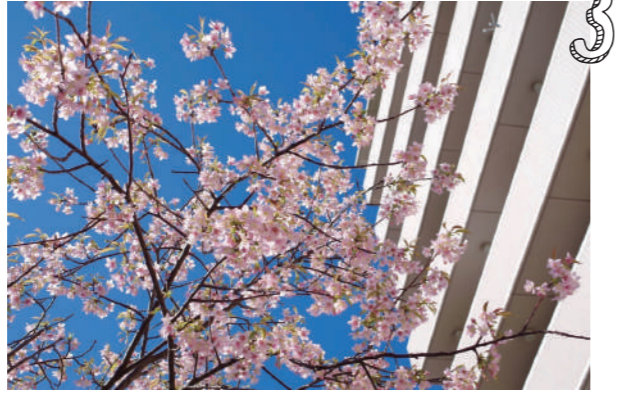


商店街のちいさな幸せみつけた!

よんまち百景



2
本通から
日展特選受賞者誕生!
日展は、日本画・洋画・彫刻・工芸美術・書の五つの部門からなる総合美術展で、世界でも類を見ない規模の公募展です。全国から、幅広い年齢の方が応募し、厳しい審査を経て選ばれます。なんとこの度、本通の方が日展の特賞に輝きました。
●改組・新・第4回日展の特選題名「雨ががら〜秋学期」日本画 作者 井上律子
彼女は岡田書店専務井上晋介さんの奥様です。150号の大きなキャンパスに、アスファルトに溜まる雨の質感を繊細に捉えています。現物は今、全国の著名美術館を巡回しているから、すぐはお目にかかれぬかも。律子さんは七回入選の末、この大賞を手に入れました。本当におめでとうございませう!



3
「もう咲いたの?」
いえ、きたはま通りの冬桜です。桜が植えられてほぼ10年。この桜12月頃満開となるヒマラヤ桜なのです。お正月用に名物桜餅ができるかな。モデルとなるよう期待しています。

4
お犬の事情とまちづくりの原点
ある日のよんまち会議の話題。「いつもご近所の皆さんと朝のお掃除をするとき、ワンちゃんの〇〇が多くて、植栽に看板でも思っていますが、どうすれば良いのでしょうか。」「看板は、せつかくのきれいな街にそぐわないしね。」「街の皆がよく掃除をしてきれいにしている姿を後ろから見てもらいたくないかな。」「よく通りでも店の周りを掃除する方を見ます。これこそ街づくりのはじまりなのではないでしょうか。」



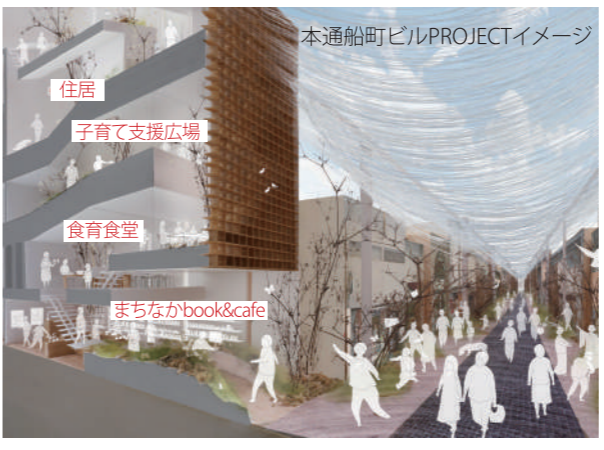
5 昔の地図が大人気!

前回のよんまちかけ橋新聞で、昭和三十年の福山中心地が載った古地図を付録にしたところ、予想せぬ大反響をいただきました。ある日、こんな電話が。「あの地図を分けてもらえませんか?」上品な女性の声。「私、川崎に住んでいるので、送ってもらえますか?」聞くと、本通のコミュニティハウスアンブレラでこの新聞を見たそう。彼女は娘時代、胡町に住んでおられ、東京在住で福山出身の友人たちにも見せたら、私も欲しい、ということ、10部ほどお送りしました。胡町辺りの地図が今手元にないとお話すると、ご自分で記憶をたどって描いた地図を後にお持ちになりました。皆さん昭和の記憶を懐かしんでおられるんですね。他の地域の古地図も順々に出せればと思います。ご期待下さい。

学生トピックス
商店街と連携した「サンタ大作戦」で本を出版するなど「FCU-Chan(フクちゃん)研究会」を6年間つばつてきた福山市立大学・大学院都市経営学研究所の今津海君がめでたく卒業しました。松江のシンクタンク「株式会社エブリプラン」に入社されます。「街の皆さまには大変お世話になりました。これからも、この経験を大事にして、まちづくりに関係のある仕事で精進してまいります。六年間ほんとにありがとうございました。」卒業おめでとう。学生さんの感性は新鮮で、多く事を気づかせてくれています。



とおり町ストリートガーデン



街づくり計画の背景と発想の転換
人工知能の話題が世界を騒がせているこの頃。あと十年経てばロボットの方が優秀で心と感情ももつようになるかも。そんな時代を背景にして、商店街も存在価値が問われてきます。街やお店は何のためにあるの?と。ロボット化したコンビニ、そしてスマホ片手のお買い物。高度成長を経験した地方都市で特徴のない都市は、ほとんど空洞化現象の問題をかかえているようです。そんな中、本通では地域の役員さん達を中心に、先の未来を見据えた発想の転換に挑戦されています。自然と人を大事にした「出合いの町、コミュニティ」の街を目指そう。「モノ・コト・ヒト・イフスタイル」という中から新しいビジネスが始まるはずだ。その考えに共鳴した建築家(株)の前田圭介氏が商店街アーケードを中心に環境整備に着手、そのたび、その空間がグッドデザインに金賞に輝きました。グッドデザイン賞とは公益財団法人日本デザイン振興会の主催で、毎年デザインが優れた物事に贈られる賞です。四季を感じる通りになり、歩いていても気持ちよく、ベンチに座ってのんびり一休みしている方がよく見えます。今後、福山の名所となるよう街が育つてゆき、また並行して空き店舗解消も進むことに期待したいですね。

とおり町ストリートガーデンが GOOD DESIGN AWARD 金賞受賞!

建築家の前田圭介氏が、新しい拠点施設を計画中とのこと。現在、北の空き店舗活用として「コミュニティハウスアンブレラ」があり、南である本通船町の中間の位置に新しい拠点施設を作る計画です。この計画は前田氏が2007年に地域活性化を目的として街づくり会社「福山(株)」を設立し、実現に挑んで計画中とのこと。イメージを見ると様々なエリアを持つ施設のようですね。前田さんの説明コメントの一部を紹介しましょう。
「子育て支援を中心に、大人が長時間滞在できるBOOK&CAFEやデザイン文具といった趣味に関わる内容が入るテナントビルと住居の計画である。1階には街に開かれ人を招き入れるショールーム、3階には子育て支援センター、それらをつなぐように2階に食堂を設けることで、暮らしや食、子育てを通して多世代が混じり合う環境を目指している。」



趣味は英会話。そして子供の頃から絵や彫刻に才能を発揮していた麻生さん。自身の体験を、時にはおもしろおかしく語りながら、「この仕事には、自分の好きなことが全部あるよね。」と、本当に楽しそうにお話する姿が印象的でした。

商店街の人たちに会いに行く。

きたはま通り
株式会社 麻生
代表取締役社長
麻生 政幸さん

依頼人 高野耕石堂 井上さん
いろいろな事に詳しく楽しい方です！

高野耕石堂の井上さんのご紹介で、きたはま通りにある『株式会社麻生』の麻生政幸さんに会いに行きました。代表取締役社長として、会社の未来を考える顔、町を考える顔、またある時は、二上り踊りを極めるなど、様々な顔を持った麻生さんのお話は、この一枚では収まらないほど、たくさんありました。

縛りは持たず、模索する
麻生さんが、ご商売を継がれたのは三十歳ぐらいの頃。当時は、麻生時計店として時計と宝石が主だったそう。「時計は入学祝いやプレゼントに。そういう社会習慣があって、今ではパソコンなのかな？当時は時計はみんながまだ持っていないものだったから、すごく求められた。」
様々な時代を経て、今は、金の取引に特化しているようで、「十年前ぐらいに思ったんだけど、今はものを売る時代じゃないなあ、って。売るといってもリサイクル。若い人の間で古着がはやっているじゃない？機械で既製のものを新しく大量に作るより、人口も減ってきているし、合理的にものを回すというか、これからどうゆーものが求められるのかなと世の中の流れや先の時代を考えると、考えながらやらないといけないと思って。」
現在は宝石・貴金属・メガネ・補聴器と、展開している麻生さん。「縛りを持たず、可能性を模索したいね。」今後、町に『〇〇の麻生』が、増えていくかも、と楽しそうにお話してくれました。



二上り踊りは、どうなれば上手いという評価になるのか？先輩に質問したら、「楽しそうに踊ってるのが上手いんだよ。」と。



「祖母の代から、庭にバラを植えていて、それを父が受け継ぎ、昔はあまり興味はなかったけど、今は自分が同じように育ててる。」



田中貴金属工業の特約店に認定されている株式会社 麻生。大きな純金のゴジラをオブジェとして店内に飾ったことも。

地域愛を軸にみんなでもまとまる
そんな麻生さん、子供の頃様々な地域に移り住んだ経験をお持ちでその影響で「おかしきくらい適応性があった。」とのこと。「よそ者扱いされないように、すました顔してさ、例えば、その学校の坊主頭が多ければ、「あ、この学校は坊主なんだな」とすぐに坊主頭にして(笑)。目、耳、空気、香りを察知して、自分の居場所を自分で作る。」
世の中の流れを敏感に察知する麻生さん



株式会社 麻生
宝石・貴金属の麻生
福山市船町1-1 (TEL) 084-923-0528
(平日) 10:00~18:30 (土日) 10:00~19:00
水曜定休
メガネ・補聴器の麻生
福山市船町1-3 (TEL) 084-926-3473
10:00~19:00 水曜定休

の感性は、そういう一た経験で培われてきたのかも。そしてこの頃、とても大切な事を学んだそう。それは、地域愛。
「富山県の学校にいた時、こきりこ節などを習ったりして、今でも笛が吹けるんだけど、福山に来て、そういう地域愛を育てるって大切だと思った。これは強制するもんじゃなく、小さい頃から、見たり聞いたりして、やりたいなあと思うもので。福山の二上りをしながら、本體を味わってみないか、と勧めた。あと、私のような年代の人が引き継がないと途絶えるんだなと思った。」
その頃から現在まで、古典芸能保存会のメンバーとして二上り踊りの奥深さに魅せられているそう。「シンプルで奥が深い。すごく疲れる。先輩方には力が抜けて自然にならたら、疲れのんよ言われるんだけど。母親にも見せたりするけど、まあまあ格好になってきたなあって。(笑)二上りの他にも、バラを育てたり、福山に対する地域愛に溢れた麻生さん。
「地域のことには前向きに参加して、地域愛を軸にみんなでもまとまる福山にしたい。」
お話の最後に、この町に対する思いとして、「自分は市井の人だけど、福山のこの地域がどうあれば、市民の人が喜ぶだろうかというのをみんなで見ながら考えていきたいと思っています。様々な意見の人がいるけど、みなさんが穏やかに笑顔が溢れる町を作りあげていきますよ。」
チャーミングな笑顔が魅力的な麻生さんでした。



商店街の人たちに会いに行く。

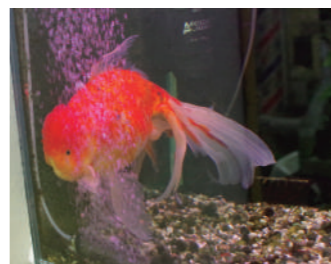
JOYふなまち
パリー理容院
理容師
谷本 賢一さん

依頼人 神野ガラス店 神野さん
お客さんに愛される極意を知りたいです！

懐かしい昭和の風景
「よくきたねえ」と迎えてくれたのは理容師であるご主人の谷本さんと奥様。お二人で長年に渡り、たくさんの方の髪を切ってくれました。パリー理容院さんがここに店を構えたのは、戦後の昭和二十三年。その前は本通り船町で、先代、先代と、理容院を経営していたそうです。
当時の地図を見ながら、「小学の四年生ぐらいだったかなあ。丸山モーターズゆーのがあって、その近くにあったんだよ。消防車なんかを修理する人がおつてなあ、終戦からまだ間もなかったけど、空き地だらけだったのに、たくさん家ができていったなあ。」
地域のよろず情報が集まる
理容の作業をずっと見ながら育ってきた谷本さんが、髪を切り出したのは十八の頃。「高校卒業してすぐよ。大阪、岡山で弟子入りして、福山に帰って、先代の手伝いははじめた。当時は、お客さん多くてなあ、大阪でも歩いてたら、お客さんに会ってなあ。まだ小さかった娘が、一緒に歩きながら怒るんだよ。「お父さん、挨拶ばかり。ゆーてな愛」当時のお客さんは五百人ほどで、一日に五十人、六十人の髪を切っていたそう。
「理容ゆーても髪を切るだけじゃないよ。お客さん同士で将棋をうったり、話してな、みんなが集まる場所、情報交換したり、よろず情報が集まって、そこへ行けばその地域のことがいろいろ分かる、当時の理容院はそういう場所だった。」
この場所とご夫婦の人柄を慕って、今でも通い続けるお客さんも多く、家族で代々通ってくれる人も。「親子三代まで切った事があるぞ」と嬉しそうに語る谷本さん。



棚にきちんと綺麗に並べられた、いろんなハサミや櫛。このお仕事を、愛し、大切に思ってる気持ちがじんわり伝わってきます。



看板娘のご長寿金魚。とっても大きくてゆっくり泳ぐ様子がかわいらしい。「みんなに大きいねえと言われて、喜んでどんどん大きくなるよ」と奥様。



親子三代まで切った事があるご主人。取材に訪れた人の祖父もお客さんだったらしく「頭の形がよく似るとのお」と。意外な出会いもあります。

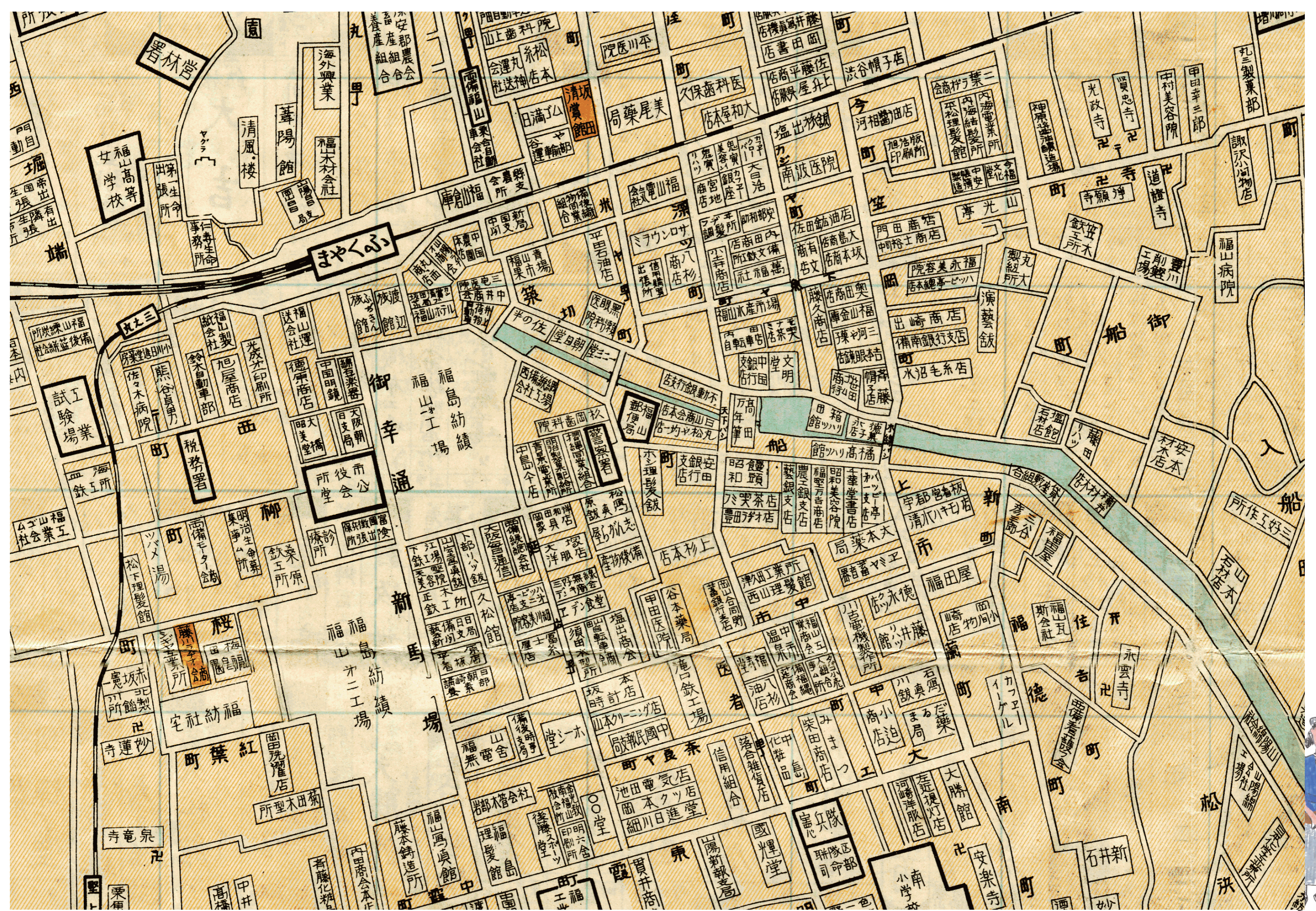


昔は「上市(かみいち 現在の神通船町)」にお店があったとのこと。電柱には当時の面影が。



パリー理容院
福山市船町1-29
TEL.084-923-3917
9:00~18:00 月曜と第1・3日曜定休
調髪4000円
ジュニアカット2600~3400円
デザインパーマ7600円
その他いろいろなメニューがあります。

「親父に怒られたことがあったなあ。髪を切るとの間、親父はお客さんとよくしゃべるんだよ。聞きたら親父に「あんた、ようしゃべるお。聞き上手になれ。しゃべるもんじゃやない。」じゃけえ親父にこう言い返したんよ。」
「あんたそう言うけど、あんたがお客さんの話を本当に聞いとるんかどうか、わしには分からん。お客さんの話に対して、自分が気付くことを言つて、初めて、投げて投げられて会話が続くんじや。あんたみたいに、ああ、そうですよね。そうそう！ばっかり、それじゃいけん。」と(笑)でも、いい親父だった。」
愛され続ける温かい場所
パリー理容院とゆう名前は、京都で修行を積んだ先代のお祖父様がつけた名前だそう。お祖父様は大変おしやれな方だったそう。カタカナの名前が少なかった当時はハイカラで珍しい名前だったそう。現在は、若いスタッフも加わり、3人で、この場所を大切に受け継いでいます。街の様子や時代が変化していく中で、変わらない場所や人、思い出に癒しを求めてくる人も。古い人は、亡くなるまで来てくれるんだよ。その人の親も知ってるから、昔の話をしたりなあ。」と谷本さん。
「長年お客さんにいろいろ教えてもらって、本当にかわいがってもらった。いつまでできるかわからないけど、今は、そのお客さんのために、思いをこめてやってあげたい。」奥様の言葉が心に響きました。



昭和九年の出来事【暮らし・流行・話題】東京日比谷に東京宝塚劇場開場・渋谷駅に忠犬ハチ公像完成・組立模型流行【ファッション】パーマント、開襟シャツが流行【通信】卓上電話機、東京に初登場【初の国立公園指定】瀬戸内海、雲仙、霧島の3国立公園が日本で初めて指定。【日用品・食品】洗剤カネヨクレンザー【カネヨ石鹼】・クリームキャラメル【明治製菓】・フランスキャラメル【不二家】【新商品】サロンプス【会社設立】日本製鉄・富士写真フィルム設立。【新商品】サロンプス【国際】ヒトラー、ドイツ総統に。【物故】竹久夢二・マリー・キュリー【音楽】レコードの検閲制度実施。主に風俗上好ましくない享乐的、退廃的な流行歌の取り締りが目的だった。【流行歌】赤城の子守唄【映画】街の灯【1931年、米】或る夜の出来事【米】【美術】金蓉（安井曾太郎）

よんまち新店

よろしくお願ひします！
近年、開店されたお店を順々にご紹介します。

手打ちうどんと 鍋・明石焼 洪さん



福山で知らない人はモグリといわれるほどの老舗名店。ちょうどこの6月で移転開店一周年となります。若女将にインタビュー。
45年前天満屋地下で、手打ちさぬぎうどんを開店。
その後、明治町で、うどんと明石焼きと一杯で、福山のお父さんお兄さんを楽しませてきました。大将と女将のコンビによる麺と明石焼きの味は、思わず「うまい!」その年期の入った味を引き継ごうと孫大将がおじいちゃんから麺打ちを厳しく仕込まれています。若女将は女将の指導を受けながら、将来バトンタッチをすること、鍋を充実すること、お昼や女性客も対象に頑張ることになり、新規一転、開店しました。
以前からメニューの主力に鍋を入れ、夜は一杯やりながら鍋をつつくのが人気。「うちの鰻(はも)鍋で、お値段はその日の鰻の相場が決まるのよ」と女将。お昼の定食は1000円くらいで、おばんざいと好きなうどん付き。家族でのれんを受け継いでゆくのはほんと老舗の鑑ですね。

720-0046 福山本通商店街(今町4-23)
若女将: 深川 知子
☎084-924-5879 日曜定休
昼11:30~14:00. 夜17:30~23:00



イタリア料理 pecora d.o.l 2017



きたはま通りにできた、かわいらしいイタリア料理のお店pecoraペコラさん。ペコラとはイタリア語で羊のこと。すてきな笑顔のオーナー森岡さんのこだわりのイタリア料理が楽しめます。鳥取の幻の黒豚トリコ豚。イタリアやフランスから仕入れたトリュフやポルチーニ茸、カモネジなどを使ったこだわりの食材を使った料理。ワインもリーズナブルなものから、オーナー自ら仕入れて来る熟成ワイン、シャンパンなど100種類以上。ここでしか味わえない珍しいものも。「珍しいものではプラータチーズ。24時間しかもたないチーズは当店しかありませんよ。」55席ある店内はパーティー会場としても人気。これからの季節、歓迎会などにぴったりです。
今度、3月21日には『福山まるしえのマルシェ』に参加いただけるということで、このきたはま通りで無料試飲できるワインやおつまみなどを提供して、ムードを盛り上げていただけるそうです。お楽しみに!

720-0043 きたはま通り商店街(船町1-8)
店主: 森岡 要
☎084-919-0490
17:00~24:00 日曜定休。



コト・リエト Coto.Lieto



船町郵便局の前にある。「Coto Lietoコト・リエト」さん。かわいい雑貨とお花などがいっぱいの店内で、店主の田中さんにごやかに話していただきました。コト・リエトの店名の、コトは田中さんのお名前から、リエトはイタリア語で楽しいということ。雑貨の販売だけでなく、いろいろな資格をおもちの先生として活躍されているそうです。教室もされているようです。
例えばダイバーケーキマイスターやベビーシャワープランナー。これは出産前の妊婦さんのお祝いとしてプレゼントする花やレースを使った装飾や小物作りの資格講座です。日本でも少しづつ定着している文化だそうです。講座には他にも、花キャンドル作りや、フラワーライフセラピスト講座や、花育士講座などあります。
「楽しいコトを広めたい。」と田中さん。出張のときがあるので不定期の休日ですが、ご連絡下さい。

720-0043 福山本通船町商店街(船町1-16)
店主: 田中琴美
☎084-959-3801 休は不定期
Mail:Coto.lieto@gmail.com



ワイン・ダイニング Belice



明るくなったアーケード街「Joyふなまち」の真ん中くらいの位置におしゃれなワイン・ダイニングのお店が生まれています。
ちょうどオープンして1年。Belice(ベリーチェ)は「飲めば幸せになる」という意味の私の造語です、と語るのはオーナーシェフの高島さん。福山の有名店、春日の都や壺乃蔵さんと腕を磨かれ、シニアソムリエの資格をもつ本格派。ワインはなかなか奥が深い飲み物です。まず、料理をきめて、ワインは「おまかせ」でソムリエのオーナーシェフさんが提案されたものが、間違いなし。インテリアもシックで、ゆっくり静かに食事される雰囲気。料理の特徴はと聞くと、「薪(まき)で焼いているんです。炭焼きはよくありますが、うちは薪なので、スモークとは違う、独特の深い香りがあります。」話でおいしさが伝わってくるようです。たまには夫婦でゆっくりと美味しい料理を味わうのもいいですね。

720-0043 福山船町宝船会商店街(船町1-24)
社長: 高島利幸
☎084-931-3320 定休日: 月曜
17:30~24:00 お昼は土日のみ



編集後記

商店街っていろんな人やお店があるのに、意外と知らないことが多い。このまちに住む人も訪れる人も両方楽しんでいただけるようなものになりたい。その思いで、今号から、商店街の大きなニュースや小さなニュース、お店や人への取材を盛り込んだものと考えました。よんまちをつなげるような楽しい回覧板のようなものになりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

発行: 福山駅東地区4商店街連携協議会(よんまち) 支援: 福山商工会議所 企画・編集・デザイン: 福山駅東地区4商店街連携協議会(よんまち)